

診療所を中核とした地域医療経営人材育成プログラム 授業計画

授業科目名	組織管理	担当者	若林直樹	実施月	2019 年度開講予定
-------	------	-----	------	-----	-------------

■講義目的

企業などでの組織の経営管理に関して、組織全体のメカニズムとそのマネジメントの基本的な考え方と代表例を理解する。ことに、トピックとしては、個人の集合体を越えた組織の特性、意思決定をめぐる組織制約、組織構造、組織形態とそのデザイン、ネットワーク組織、提携マネジメント、企業文化と改革、そして組織変革などを扱う。

本講では、次を目標とする。

- (1) 組織のマクロなメカニズムについての基本的な知識を得る。
- (2) 実際の企業活動などでの組織活動のマネジメントの代表的な実践について理解を深める。
- (3) ビジネスケースを通じた組織活動の改善や革新に関するマネジメント手法の評価を行う。

■教科書<著者『タイトル』出版社、出版年>

(1) ケース

- a) ケースの購入：授業の中では、3本程度のビジネスケースを利用するので、事前に日本ケースセンターを通じて「一般会員」として登録後、購入すること。

日本ケースセンター：http://www.casecenter.jp/ccj_user/html/index.aspx

b) 利用するケース

- 1) Simons, R.L. et al. 『アセア・ブラウン・ボベリ』(2008) コンテンツ ID：CCJB-HBS-70002-01
- 2) Salter, M. S. et al. 「アサヒビール」(2011年) コンテンツ ID：CCJB-HBS-70017-05
- 3) Yoshino, M. et al. 「日産自動車、2002年」コンテンツ ID：CCJB-HBS-80045-02

(2) 基本的な概念の概念の教科書

田尾雅夫『よくわかる組織論』(ミネルヴァ書房)等を用いる。

■各回ごとの授業内容

第1回 1-2 講時

1. 有能な個人は会社の業績を上げるのか？

組織は、単なる個人の集合と異なる特性を持つ。組織の業績が個人の業績の合計と異なる面を理解し、組織業績の管理を考える。事例としては、オークランド・アスレティックスにおけるサイバーメトリックスの活用を考える。

2. 意思決定に対する組織の影響

経営上の意思決定に対しては、一定の組織の影響や制約がある。その特徴について理解する。

第2回 3-4 講時

3. 組織的な意思決定のケース分析

NASA のスペースシャトル事故を実践ケースにして、組織の意思決定の制約とその対処法について

4. 経営環境と組織構造

経営環境のあり方に対して、組織の構造がどのように仕組みであるのかについて考える。NTT 西日本の改革を例に考えてみる。

第3回 5-6 講時

5. 組織の形態と進化

大規模な企業では、組織の様々な構造形態が見られる。職能部門制、事業部制、マトリックス組織の構造について考える。

6. 事業部制の持つ課題とその改革のビジネスケース分析

事業部制の持つ構造的な課題とその改革について、松下電器(パナソニック)とABBの二つの事例を通して考える。

第4回 7-8 講時

7. 組織の活性化とデザイン

組織が成長するにつれてどのような機能不全になるかを理解し、その対処法としての組織デザインを考える。

8. 組織活性化改革のビジネスケース分析

ツタヤ(CCC)の2000年代の急成長と、そこでの組織の機能不全の起こり方、そしてその対処法について考える。

第5回 9-10 講時

9. ネットワーク組織

組織の内部のフラット化や、外部企業の取り込みをしながら企業組織のネットワーク化が進んでいる。その基本的な原理とあり方を考える。

10. 提携のマネジメント

ネットワーク組織の一般的な形態の一つである提携について考える。その際に、異業種マーケティング提携 WiLL の展開を見ながら、そのマネジメントの基本的な考え方を分析する

第6回 11-12 講時

11. 企業文化のマネジメント

企業は、会社ごとに、独自の文化を持ち、社員の認知、判断、行動パターンが異なってくる。この企業文化のメカニズムを理解し、その変革について考える。

12. 企業文化変革のビジネスケース分析

1980年代のアサヒビールにおける社員の意識改革とその展開を分析しながら企業文化変革について考える。

第7回 13-14 講時

13. 組織変革のマネジメント

経営環境の変化の中で、企業全体の組織を変革することが重視されてきている。組織変革の基本的なプロセスとそのリーダーシップ特性を考える。

14. 組織変革のビジネスケース分析

日産自動車のルネサンス改革をビジネスケースにしながら、実際の企業改革のプロセスとその進め方について分析する。

■授業方法

組織のマクロ的な経営管理に関する基本概念を、授業資料と教科書を用いて、講義し、理解をする。それを踏まえて、代表的な企業のビジネスケースを取り上げて、それについて分析、討議し、対処法を考えるケースメソッドで行う。

■参考文献<著者『タイトル』出版社、出版年>

若林直樹『ネットワーク組織』有斐閣、2009年。

それ以外に必要なに応じていくつかの参考文献をLUNAに掲載するので、それを利用すること。

■成績評価の基準と評価方法

平常レポート 30 % 期末試験(レポート試験)。期末レポートの提出を求める。

その他 70 % 数回の中間レポートを提出してもらう。また、授業での後見点も考慮する(事前課題について予習し、授業に出席し、授業課題についての討議での貢献を評価する)。

成績は、普段の授業(特に事例分析)に参加して、事前準備をしたケースについての分析討論とそこでの後見をまず見る。そして、各自もしくはグループでケースについての指定課題の分析をレポートを数回行う。これらの合算で評価する。

■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

授業の各回に関して、事前資料を掲示する。また、いくつかのビジネスケースについては、文献を指定するので、それを事前学習、復習すること。

■その他事項

ビジネスケースは、教科書指定のハーバードケース以外も使うが、その場合には、LUNA上で文献の掲示を行う。